



<目次>

巻頭言P1
教育研究所の活動についてP2
調査研究活動事業の研究指定校・団体P4
初任者紹介P5
教育研究所第13次研究についてP6
教育研究所情報：研究図書についてP7
ICT支援員及びSSWの活動等についてP8

小樽市教育研究所 所長就任にあたって



小樽市教育研究所所長 薄井洋仁
(小樽市教育委員会教育部長)

小樽市は、大正11(1922)年に市制が施行され、古くから漁業や海運、金融・商工業など、北海道経済における重要な役割を担いながら、本年8月1日に市制施行100周年を迎えます。この間、産業構造の移り変わりなど、本市を取り巻く環境は大きく変化しましたが、現在は国内外から多くの観光客が訪れる観光都市としても光を放っています。

残念ながら、本市の人口は昭和39年の約20万7千人をピークに減少に転じ、現在は11万人弱となりましたが、潮まつりをはじめとした各種イベントに取り組むまちづくりグループなど、多くの市民の皆さんが、街を愛しその情熱を傾けているほか、全国各地・各界で活躍される本市出身者の応援も多く、「人」の力が、小樽の強みとして、個性と輝きを一層際立たせているものと考えています。

市内の小学校で活用されている教材「小樽の歴史」には、本市の変遷のほか、先達の功績や英知が掲載されています。子どもたちがそうした学習をとおして、改めてふるさと小樽の魅力と可能性を発見し、未来へと繋いでくれることを期待しています。

社会のあり方が猛スピードで変化している時代にあっては、多様な人々と協働しながら、自ら道を切り拓くことのできる柔軟さとたくましさが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の一層の深化を図るため、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められています。

子どもたちにとって、小樽で学んでよかった、小樽に住んでよかったと思えるよう、皆さまのご協力をいただきながら、本市教育の充実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<所報「環流」をひも解くと…>

コラム

所報「環流」は、昭和38年9月に学校と研究所をつなぐ重要な機能として発行されました。創刊時から表題のカットとして使用されている「ロダンの『考える人』」について、創刊号には「この人間性を深く思索する姿には誰もが心を打たれますが、大地に喰い入るように踏まえた両脚はその思索が単なる夢想でないことを物語っています。教育的思索もこのようにありたいと考えます。この所報も今後単なる夢想に終わらず、社会性をもち、教育的地盤に立脚したものとして発展させたい。」と記されています。

今後もこの精神を基に、各学校の魅力ある取組や新しい教育の動向などについて掲載し、学校と学校、学校と研究所をつなぐ役割を果たしていきたいと思っております。

令和4年度 教育研究所の活動について

新年度最初の所報を発刊するにあたり、改めて小樽市教育研究所の活動について概要を紹介させていただきます。教育研究所の業務内容は、「教職員研修に係ること」「教育活動に係ること」「教育相談に係ること」の3つに大きく分けられています。いずれも学校教育や家庭教育等に寄与するものですが、主なものは次のとおりとなっています。

1 教育研究の推進

小樽市教育研究所は、研究員6名の協力を得ながら第13次研究1年次目をスタートしました。これまでの第12次研究の成果と課題を基に、研究主題の追究と小樽の児童生徒の「確かな学力」をはぐくむ研究の推進に努めます。

新しい研究員を紹介します！ よろしくお願ひします

小樽市立山の手小学校
教諭 安藤 恵



今年度、小樽市研究所研究員となりました、山の手小学校の安藤恵と申します。勤務校では

4年生担任及び学力向上部として、日常実践に励んでおります。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいますが、自分自身たくさんの課題を感じているところです。今回、貴重な機会をいただきましたので、研鑽に努めながらたくさんの方の学び、子どもたちの更なる成長のために尽力していきたいと考えております。

1年間、よろしくお願ひいたします。

小樽市立菁園中学校
教諭 佐藤 冴



今年度より、研究員として活動に参加させていただくこととなりました。

昨年度から中学校でも新学習指導要領が完全実施となり、学習評価の方法も変わりました。さらに、GIGAスクール構想により導入された一人一台端末等、ICT機器の活用も課題です。研究すべきこと、身につけるべきことは多々ありますので、教育研究所でしっかりと勉強して、その成果を小樽の子どもたちに還元できるよう、尽力してまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

小樽市立銭函小学校
教諭 佐藤 充



今年度より、小樽市教育研究所研究員として活動させていただくことになりました。

小樽市で勤務させていただきました。5年目となります。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて更に研修を深めていく必要性を日々実感しております。また、学級閉鎖時のオンライン授業やICT機器の活用が求められる中、教師としてのスキルや指導力の向上が必要だと感じています。今回、自らの研鑽を深める機会をいただきましたことに感謝しております。

1年間、よろしくお願ひいたします。

昨年度に引き続いて委嘱された研究員の皆さん



(左から順に)

潮見台中学校 教諭 達崎 慶太 (3年目)

奥沢小学校 教諭 太田 淳 (2年目)

潮見台小学校 教諭 平口山 立治 (2年目)

2 研修講座の開催(予定)

	期 日	講 座 名	講 師
1	期日未定	環境教育研修講座(「おたるの自然」デジタル版の活用等)	ICT 支援員, 市内教員等予定
2	期日未定	第13次教育研究検証授業公開	研究所研究員

3 調査研究活動事業の推進

- 研究推進校・団体, 研究交流校・団体を指定し, 各学校・団体の研究活動の奨励・推進に取り組みます。
- 研修発表会等により, 研究校・団体の研究交流の充実を図ります。
- 取組内容や成果と課題等を「研究集録」にまとめ, 3月末に発刊する予定です。

4 社会科副読本 及び 理科教材, 歴史教材の活用促進

- 社会科副読本「わたしたちの小樽」は昨年度改訂作業を行い, 今年度新たに令和4・5年度版を発行しています。
- 理科教材「新版『おたるの自然』」はデジタル版を作成し, Chromebook 等での活用が可能になりました。各学校において効果的で積極的な活用をお願いします。
- 大好評である「教材『小樽の歴史』」の効果的な活用に向けて, 各学校の取組状況や内容等の情報発信に努めます。

5 学力調査の推移

- 標準学力調査を実施し, 学力における個人や集団の特性を客観的に測定・診断し, 適切な指導の充実を図るための情報発信に努めます。

6 研究図書・研究資料の活用促進

- 学習指導や生徒指導, 学級経営などの図書や資料を貸出します。
- 蔵書や新規購入図書はチラシ等で紹介します。
- 貸し出しは電話やメールでも受け付けています。

7 ICT 支援員の活動

- ICT 支援員が, ICT に係る授業や資料の提供, 情報モラル教室など, ICT 教育全般について支援します。

教育研究所職員**8 教育相談活動の実施**

- 小中学生やその保護者を対象に相談活動(面接・電話・メール)を行い, 関係機関と連携を図りながら相談者に寄り添った対応に努めています。
- 来所相談・電話相談: 22-4812
(月曜日～金曜日: 午前8時50分～午後5時20分)
- 教育相談メール:
kyoiku-sodan@city.otaru.lg.jp
- スクールソーシャルワーカー(SSW)が学校, 家庭, 関係機関と連携・協力し, 子供の置かれている環境の改善等に向けた活動を行います。

所 長 薄 井 洋 仁 (教育部長)
 副所長 大 山 倫 生 (学校教育支援室長)
 主 幹 菊 野 幸 治 (学校教育支援室指導G主幹)
 主 査 瀧 口 博 貴 (学校教育支援室指導G主査)
 主 査 松 本 義 雄 (教育総務課総務係長)
 所 員 高 橋 ありさ (教育総務課総務係)
 所 員 藤 原 博 貴 (教育総務課総務係)
 所 員 井 村 文 俊
 所 員 藤 崎 淳
 所 員 藤 平 繁 範 (ICT 支援員)
 所 員 岡 田 雅 彦 (スクールソーシャルワーカー)
 ※スクールソーシャルワーカー(SSW)は, 月・水・金曜日(11:15～17:00)の勤務です。

令和4年度 調査研究活動事業 研究校・研究団体を紹介します

小樽市教育研究所では、小樽の子どもたちに「小樽市教育推進計画」に示されている「未来を創る力（『確かな学力』等）」「豊かな心」「健やかな体」などをはぐくみ、小樽市の教育を向上・発展させることを目的に、学校や研究団体に対して研究活動の奨励・推進に取り組めます。

今年度は、13校・6研究団体から申請があり、下記のように決定しました。今後、研究所や学校・研究団体と協力・連携しながら、教育活動の調査研究を行い、その成果を各学校・研究団体に環流していく予定です。

学校名	指定	学校の研究主題
稲穂小学校	推進校	学級経営を基盤として、一人一人が主体的に学びに向かう授業づくり ～算数科における「考えて伝え合う授業」を通して～
花園小学校	推進校	自ら意欲的に学び、互いのよさを認め合う子どもの育成 ～算数科における「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり～
潮見台小学校	推進校	「自ら学び、豊かに伝え合う子どもの育成」 ～国語科「読むこと」領域における「言葉による見方・考え方」を働かせる 学びを通して～
山の手小学校	推進校	『主体的に学びをつなぐ子どもの育成』 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
銭函小学校	推進校	「自分の考えをもち、学び合う子どもの育成」 ～筋道を立てて考え、表現する力を育てる指導の工夫～
高島小学校	推進校	主体的に学び、伝え合う子どもの育成 ～「わかる楽しさ」や「できる喜び」を実感させる指導の工夫～
桂岡小学校	推進校	健康の保持推進を目指し、自らが生き生きと学ぶ子どもの育成 ～体育・食育における指導方法の工夫を通して～
菁園中学校	推進校	自己肯定感を高め、生きる力を育む学習指導の研究 ～「主体的・対話的で深い学び」に向かう、学びと評価の一体化の工夫～
望洋台中学校	推進校	「自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」 ～どの子どもも主体的に学べる授業づくりを目指して～
西陵中学校	推進校	「学ぶ力を高め、深く思考し、よりよく表現する生徒」の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置付けた授業の創造～
奥沢小学校	交流校	「自らが生き生きと学ぶ子どもの育成」～学ぶ喜びのある授業の創造～
望洋台小学校	交流校	「たくましく、心豊かに、学び合う子」 ～算数科を通して、生き生きと協働的に学び合う子どもの育成～
北陵中学校	交流校	「学びに向かう力」を育む授業改善 ～「習得」から「活用」「探究」へつながる学習活動の工夫を通して～

研究団体名	指定	研究団体の研究主題
小樽市算数数学教育会	推進団体	「未来社会を切り拓く力を育む算数・数学教育の探究」 ～主体的・対話的で深い学びの実践を通して～
小樽市社会科教育研究会	交流団体	郷土に夢と誇りをもち 未来を拓く子どもの育成 地域とのかかわりの中で、自らの課題を追究し主体的・ 対話的に学びつづける子どもを求めて
小樽市複式教育研究会	交流団体	『主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさと を切り拓く子どもの育成』 ～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人 の未来に生きる力を育む学校・学級経営と学習指導の充 実を目指して～
小樽市道徳教育研究会	交流団体	「主体的に考えを深め合う児童・生徒の育成」 ～魅力ある道徳の授業づくりを通して～
小樽市学校体育研究会	交流団体	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の 創造」
小樽英語教育研究会	交流団体	「グローバル化に対応した英語教育の実践」

※ 研究推進校・研究推進団体は、教育研究所の研究課題の解明に積極的に協力・連携し、研究活動を行っていただく学校・研究団体として指定しております。

<令和4年度 初任者紹介> 「よろしくお願ひします！」

今年度新たに採用になりました5名の教職員の皆さんを紹介します。

教職員としての喜びと責任感を胸に、日々奮闘していることと思います。先輩の皆さんの支えや指導が大きな力になりますので、どうぞよろしくお願ひします！！



小樽市立手宮中央小学校 養護教諭 西川 亜紗加

今年の4月に、小樽市立手宮中央小学校に着任いたしました、西川亜紗加と申します。小学生の時から夢だった養護教諭になることができ、子どもたちと関われることに喜びを感じております。自分の力不足を感じる毎日ですが、先生方や元気いっぱい子どもたちに支えられ、充実した日々を過ごすことができます。子どもたちの心と身体の健康に真摯に向き合い続け、信頼される養護教諭になれるよう、努力してまいります。



小樽市立長橋中学校 教諭 畑谷 遥歌

今年度より新採用として小樽市立長橋中学校に着任しました。1年生の担任をしております。生まれ育った小樽で先生として仕事ができる喜びと様々な不安もありますが、先生方や生徒に支えられて充実した毎日を送ることができます。授業では生徒たちが楽しく数学を学べることを目標に教材研究を行っております。生徒たちに向き合い、お互い成長していける信頼関係を築いていきたいと思っています。これからよろしくお願ひ致します。



小樽市立稲穂小学校 教諭 田口 悠夏

この度、稲穂小学校に着任しました、田口悠夏と申します。生まれ育った小樽市の教育に携わることができ、大変嬉しく思います。5年生を担当し、2ヶ月が経ちました。初めて経験することばかりで、戸惑うことも多いですが、先生方にたくさんのご指導をいただき、充実した毎日を送っています。学ぶ姿勢を忘れずに、子どもたちが安心して楽しく学校生活を送ることができるよう尽力して参ります。よろしくお願ひいたします。



小樽市立桜小学校 教諭 木田 美也子

五年生の担任として、慌ただしい二ヶ月があつという間に過ぎました。毎日新しい学びと反省を繰り返し、小さい頃から憧れていた小学校の先生という仕事のやりがいと大変さを実感しています。子どもたちがより過ごしやすい学級を目指して、手探りの日々ではありますが、一歩ずつ精進してまいります。先輩の先生方、保護者の方々と協力しながら、児童とともに成長できる教員を目指していきます。



小樽市立北陵中学校 教諭 篠木 正行

今年度から改めて新規採用者として北陵中学校で勤務することとなりました。臨時採用の時から生活してきた子どもたちと、引き続き関われることを大変嬉しく思っています。勤務校の先生方に助けられながら、小樽という土地の暖かさに触れ日々を過ごすとともに、自分の感じた「暖かさ」を子どもたちにも継承していけるように毎日の学校生活を通して伝えていきたいです。生徒と共に土地の魅力を発見しながら共に学んでいこうと思います。

令和4年度 小樽市教育研究所第13次研究(第1年次)について

＜研究主題＞【社会に生きる資質・能力を育む学習指導の在り方(1/3年次)】(仮)
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業づくり～

本研究所では、昨年度までの第12次研究において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、見通しをもつことができる指導計画の作成や学びの連続性を生む振り返りの位置付けなどについて研究を進めてきました。新学習指導要領が全面実施されて2年が経ち(中学校は1年)、これからの教育は、「令和の日本型学校教育」を目指し「すべての子供たちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現」が求められています。

これらのことを踏まえ、本研究所では上記研究主題を検討し、新たに第13次研究を進めようとしています。各学校の研究と通じるところが多くあると思いますので、各学校と共に歩んでいくことができればと思います。

＜研究イメージ＞

研究主題(仮)

社会に生きる資質・能力を育む学習指導の在り方
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業づくり～

目指す子供像

目的意識をもち、自分の力で考え、他者とかがわることで自身の成長を実感できる子供

研究仮説

子供の成長やつまずきなどを理解し細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し主体的に学習を調整することができるよう促していくなどの「個別最適な学び」と、他者と異なる考えが組み合わせり、よりよい学びを生み出す「協働的な学び」を意識した授業づくりを工夫することで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、求められる資質・能力を育てていくことができるだろう。

＜研究内容1＞

「個別最適な学び」の工夫

研究の視点1(例)

- ・ 個々の特性、学習進度・到達度等の把握
- ・ 必要に応じた重点的な指導、指導方法の工夫

＜研究内容2＞

「協働的な学び」の工夫

研究の視点2(例)

- ・ 子供一人一人のよさや可能性を伸ばす工夫
- ・ 異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す工夫

資質・能力の向上

教育研究所情報

教育研究所では図書の貸出しを行っています



当研究所には、教育に係る蔵書が書店並みにそろっており、教育の流れに応じた新刊も随時購入しております。これまでも、多くの教職員の方々に借りていただいておりますが、それぞれの課題や関心に応じたものがきっとあると思いますのでいつでもお立ち寄りください。

また、小樽市内の各学校の研究紀要・集録や道内・道外の教育研究所の研究紀要等を資料として保存しております。閲覧・貸し出しも可能ですので是非活用ください。

<貸出しの流れについて>

◎ 教育研究所への直接来所による貸出し

- ◆ 教育研究所にて、図書を自由にご覧いただき、希望の図書が見つかりましたら所員にお知らせください。
- ◆ 貸出し簿に必要事項を記入していただきます。
*貸出し冊数に制限はありません。
- ◆ 返却期限までに教育研究所にご返却ください。
*貸出し期間は2週間、新規購入図書は1週間です。延長を希望される場合は連絡が必要です。

◎ 新規購入図書案内(チラシ等)による貸出し

- ◆ 教育研究所では年に数回新規購入図書についてチラシ等により各学校に案内をしております。
- ◆ ご希望の図書が見つかりましたら、電話またはメールにて教育研究所に①～③の事柄をご連絡ください。
①学校名と氏名 ②図書名 ③希望貸出し期間
- ◆ 図書をメール便にて送付します。
- ◆ 返却期日までに教育研究所にお戻しください。
(返却は3冊程度であればメール便でも可能)

<「令和の日本型学校教育」に係るお勧めの図書>

【個別最適な学び×協働的な学びを実現する学級経営】

個別最適な学びと協働的な学びを実現する10ヶ条から、ミクロとマクロの協働、自己調整学習によって保障される個別最適な学びなど、取り組み方のアイデアが満載の1冊。



【「個別最適な学び」を実現する算数授業の作り方】

「指導の個別化」と「学習の個性化」の両立を図りつつ、算数科の目標も目指した「個別最適な学び」一年間の実践を基にまとめた一冊。



協働的な学び、1人1台端末、自己調整学習、学習評価など関連する重要なキーワードとともに掘り下げます。

<お申し込み・お問い合わせ→ 小樽市教育研究所>

Tel 0134-32-4111 (内線7222)

E-mail kyoiku-kenkyusyo@city.otaru.lg.jp



【ICT 支援員の積極的な活用を】

ICT 支援員より



教育の ICT 化に向けた環境が整備されて ICT 活用指導力が求められる中、各学校におかれましてもChromebook等の ICT 機器を活用した授業が進められているかと思えます。今後もより一層の効果的な活用を目指し、さらなる児童生徒の「情報活用能力」の育成、ICT 機器操作の習得や授業改善、機器設置や環境整備、校内研修の充実などを図るために積極的な ICT 支援員の活用をお願いいたします。児童生徒が Chromebook を操作する際の補助や、ICT を活用した授業がスムーズに行われるためのサポーターとしての活用、ICT 支援員作成の「ちょこっと くら〜む」で紹介している内容のミニ研修など、継続的なものからワンポイントの支援までさまざまな対応が可能ですのでご遠慮なくお申し付けください。

また、情報モラル教室やインターネット・スマホに関わるトラブル等の最新情報をお伝える研修会も実施できますのでお声掛けください。電話でも ICT 関係や情報モラルに関わるご相談も受け付けておりますのでお気軽にお電話ください。お待ちしております。



SSW(スクールソーシャルワーカー)より

『チーム学校』

令和3年度に学校(管理職・担任)から相談を受けた件数は25件でした(R4.3.31)。内訳は、不登校17件、いじめ2件、暴力行為2件、発達障害等に関する問題1件、その他3件で、不登校に関する相談が約7割を占めていました。

令和4年度は、今のところ不登校の相談は9件(前年度から継続を含めて)で、支援中だが好転してきているものが6件となっています。(最近2件については、ちょっと怪しくなってきました。)

不登校を解消するのは一朝一夕にはいきません。不登校を担当だけでなく学校全体(協働体制を明確化する)の問題として捉え、『チーム学校(管理職・担任等・SC・SSW・関係機関等)』として保護者と共に、将来の「子どもの自立」という共通の目標に向かって支援することが大事だと思います。また、保護者が「このままではいけない。子どもの不登校を何とか改善したい。」という気持ちが無ければなかなか前へは進みません。

不登校は初期対応が重要です。迅速に丁寧に『チーム学校』として問題に対応することが求められます。

「おたるの自然デジタル版」の効果的な活用を!

「理科教材『おたるの自然』」は、学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、観察、実験、栽培、飼育などの学習を促すとともに、自然の事物・現象について実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を身に付けることや、地域(郷土)学習の材料として小樽の地域的な特性や特徴を理解できる内容になるよう工夫されています。



児童生徒の1人1台端末の整備がなされ、各学校では各教科や総合的な学習の時間等において活用されていることから、このたび「理科教材『おたるの自然』」のデジタル版を作成し、今年の5月から児童生徒及び教員のみ閲覧できる形でアップしています。デジタル版ではChromebookを使用することにより、画像の拡大や、動画や音声の視聴などができ、臨場感を味わいながら学習を深めることができます。今後、一層効果的な活用を工夫し、楽しい授業づくりが進められることを期待しています。

なお、著作権保護のため画像・動画・PDFファイルはダウンロード・印刷はできません。